

広島大学学術情報リポジトリ

Hiroshima University Institutional Repository

Title	コロナ禍におけるドイツの移民・難民のための統合コース
Author(s)	吉満, たか子
Citation	広島外国語教育研究 , 25 : 199 - 210
Issue Date	2022-03-01
DOI	
Self DOI	10.15027/51970
URL	https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00051970
Right	Copyright (c) 2022 広島大学外国語教育研究センター
Relation	



コロナ禍におけるドイツの移民・難民のための統合コース

吉 満 たか子

広島大学外国語教育研究センター

1. はじめに

ドイツでは2005年の移民法施行に伴い、移民・難民を対象とした統合コース (Integrationskurs) が開始された。このコースの参加者は600時間のドイツ語授業を受講し、その後100時間をかけてドイツの法制度や社会生活について学ぶが、政府はこのコースを終了した移民・難民がCEFRのB1レベルのドイツ語を習得することを目標としている。

連邦移民・難民庁 (Bundesamt für Migration und Flüchtlinge, 以下 BAMF) の統計¹⁾によれば2005年の開始以降、2020年までに約243万人が統合コースを受講している。毎年の受講者は、欧州難民危機の影響を受けた2016年度の約34万人をピークに、2019年度には17万6千人にまで減少した。コロナ禍の影響を受けた2020年度の受講者は、10万6千人であった。

統合コースを実施しているのは、ドイツ各地にある市民大学 (Volkshochschule, 以下 VHS) やゲーテ・インスティトゥート (Goethe-Institut) などの語学学校、キリスト教系団体や市民団体などで、2020年度は1539カ所であった。受講者は45分の授業1コマ当たり2.2ユーロ (約290円) を負担する必要があるが、経済状況に応じて減免制度が設けられている。無論、受講者の負担だけでは統合コースの運営は不可能であるため、2020年度ドイツ政府は国家予算の約0,14% にあたる約7億ユーロ²⁾ (約908億円) を統合コースの運営費として歳出している。

これだけ多くの移民や難民を受け入れ、国家予算を投じてドイツ語を教育する理念をドイツ政府は以下のように述べている。

Hinreichende Sprachkenntnisse sind die notwendige Grundlage sowohl für die Integration in den Arbeitsmarkt als auch die Eingliederung in die Gesellschaft und die Teilnahme am gesellschaftlichen Leben. („Darstellung der Maßnahmen der Bundesregierung zur Sprachförderung und Integration“, S.12)

十分な言語の知識は、労働市場への統合だけでなく社会への適応や社会生活への参画に必要不可欠な基礎である。

また次の記述にも見られるように、移民・難民に対してもそれなりの「努力」を求めている。

Basis der integrationspolitischen Strategie der Bundesregierung ist der Grundsatz des Förderns und Forderns. Integration ist ein Angebot, aber auch eine Verpflichtung zu eigener Anstrengung. („Darstellung der Maßnahmen der Bundesregierung zur Sprachförderung und Integration“, S.5)

連邦政府の統合政策の基本は、支援と努力という原則である。統合は提供されるものではあるが、努力する義務を負うことでもある。

コロナ禍でドイツへ流入する移民や難民の数は激減したと言えるが、ドイツ政府および BAMF は移民・難民統合の歩みを止めることはなく、様々な対策を打ち出している。本稿ではまず、2020年3月中旬から行われたドイツのロックダウンの前後において BAMF が統合コースの実施者に出した通達を追い、コロナ禍で統合コースがどのように実施されてきたのかを考察する。次に統合コースに対して出され対策のうち、BAMF が提案した「授業継続のための5つの授業モデル」とそれらが実際にはどのように実践されたのかを考察する。なお、統合コースには様々な種類があるが、本稿ではコース参加者全体の約8割が受講する一般的な統合コース (Allgemeiner Integrationskurs) を取り上げる。

2. 統合コースのためのコロナ対策

2.1 BAMF の通達

ドイツ政府は2020年3月16日に、同年3月22日から5月4日まで、いわゆる「ロックダウン」を行うことを決定した。BAMF は3月9日付の統合コース実施者宛ての通達 (Trägerrundschreiben Integrationskurse 02/20, 以下 TRS³⁾) で、「それぞれの地域の当局が休校措置を講じた場合にはそれに従うこと」としていたが、3月14日付 (TRS 03/20) ですべての実施者に、14日間の休校措置を早急に取りよう通達した。こうしてロックダウン開始以前に統合コースは休止されたが、その後も BAMF は統合コース実施者に宛てて次々と通達を出している。

3月25日付 (TRS 04/20) の通達では、「3月27日に社会サービス事業者投入法 (Sozialdienstleiter-Einsatz-gesetz)」が制定され、統合コースの実施者および教員はこの法律により保護されること」と「BAMF が今後、授業のデジタル化に支援を強化すること」が明記されている。この通達の最後には、コースの実施者や現場の教員を励ますために次のような一文が添えられている。

Seien Sie versichert, dass wir alles in unserer Macht stehende unternehmen, Ihr wertvolles und hochqualifiziertes Sprachförderangebot zu erhalten. (Trägerrundschreiben Integrationskurse 08/20)
みなさんが行っている貴重で質の高い語学授業を継続するために、私たちの権限でできることをすべて行いますので、安心してください。

2020年3月30日 (TRS 05/20) には、「Volkshochschule (市民大学) の学習ポータル利用の推奨」と「それを利用した場合には助成金を出すこと」、「学習ポータル導入のための無料教員研修がオンラインで行われること」が通達された。学習ポータルの利用を推奨する理由を BAMF は次のように説明している。

Die Unterbrechung aller Integrations- und Berufssprachkurse wegen der Maßnahmen gegen die Verbreitung des Coronavirus stellt einen großen Einschnitt für die Lernprogression der betroffenen Kursteilnehmenden dar. Mit der Verwendung von webbasierten Angeboten kann zumindest der Lernfortschritt der Teilnehmenden erhalten bzw. gefestigt und die Wartezeit bis zur regulären Fortführung der Kurse sinnvoll genutzt werden. (Trägerrundschreiben Integrationskurse 09/20)
コロナウィルス感染防止対策により、すべての統合コースおよび職業ドイツ語コースが中断されることは、コースの参加者にとっては学習の進歩を止めることに他ならない。ウェブ上にある教材を利用することで、少なくとも参加者は学習を進めることができるし、

学習したことを定着させることができる。そして、通常のコースが再開されるまでの時間を有効に活用することができる。

4月9日付（TRS 06/20）の通達では、統合コースの実施者は社会サービス事業者 (Sozialer Dienstleiter) であり、3月に制定された社会サービス事業者投入法に基づき補助金を申請できることとその方法について周知された。

ロックダウンは5月4日に解除され、5月6日に政府は「感染防止のための制限を解除するかどうかは、各州に権限を委ねる」ことを決定した。これに伴い BAMF は5月13日付の通達で、休止されていた統合コース再開のための段階的プランを提示した。このプランでは以下のような3つの段階が設けられた。

- 第1段階： 州または市町村の当局が許可した場合には、感染防止対策を講じた上で対面授業を可能とする
- 第2段階⁴⁾： 州当局の指示に従い、中断されていた「移民のためのドイツ語試験 (Deutschtest für Zuwanderer, 通称 DTZ)」と「ドイツでの生活に関する試験 (Tests Leben in Deutschland, 通称 LiD)」の実施を、感染防止策を講じた上で可能とする
- 第3段階： 2020年7月1日までに BAMF が⁵⁾、各州文部大臣会議 (Kultusministerkonferenz) による「学校での授業再開大綱⁵⁾ (Rahmenkonzept für die Wiederaufnahme von Unterricht in Schulen)」に従い、授業再開を決定する

2020年6月29日（TRS 07/20）には、統合コースを継続して実施するための「対策パッケージ (Maßnahmenpaket) が通達された。このパッケージには、特別給付金の支給やそのための条件緩和といった経済支援に加え、実施者それぞれの事情に応じて柔軟に授業を再開できるよう、5つの授業モデルが提示された。次章ではこの5つの授業モデルを紹介する。

2.2 授業実施のためのモデル

コロナ禍で授業を継続するために、BAMF は以下のような5つのモデル⁶⁾と、それぞれのモデルに対して授業の質を担保するための最低基準 (Qualitative Mindeststandards) を提示した。

- Modell 1： Präsenzunterricht in ausreichend großen Räumlichkeiten
十分な広さの教室での対面授業
- Modell 2： Virtuelles Klassenzimmer
ヴァーチャル教室
- Modell 3： Präsenzunterricht mit Livestream-Übertragung in zweiten Kursraum
対面授業とその別室へのライブ配信
- Modell 4： Präsenzunterricht mit zugeshaltetem virtuellen Klassenzimmer
対面授業とヴァーチャル教室
- Modell 5： Präsenzunterricht mit einer Lehrkraft in zwei Kursräumen
2つの教室を使用した対面授業

次にそれぞれのモデルの詳細を紹介する。

2.2.1 モデル1：十分な広さの教室での対面授業

モデル1は従来の対面形式である。BAMFはこのモデルが最も適しているとして、次のように通達している。

Die Ziele eines Integrationskurses sind in der Regel durch den Präsenzunterricht für alle Teilnehmenden am besten erreichbar, so dass der Präsenzunterricht – sofern realisierbar – vorrangig umgesetzt werden soll. (Trägerrundschreiben 14/20, Anlage 1)

すべての受講者にとって統合コースの目的へ到達する最良の方法は、対面授業である。したがって、実施が可能であれば、対面授業を最優先させるべきである。

このモデルを採用する場合には、少なくとも1.5メートルのソーシャルディスタンスを確保する必要がある。授業の質を担保するために、教員はすべての受講者が見えるように、そして声が聞こえるようにする必要がある。また、板書や教材提示などが受講者から問題なく見えるようにする必要がある。

2.2.2 モデル2：ヴァーチャル教室

ヴァーチャル教室とはビデオ会議システムを利用した遠隔授業のことである。このモデルで授業を実施する場合には、授業開始前に受講者を対象としたガイダンス (“Onboarding”) を実施しなければならず、ガイダンスは授業時間にはカウントされないことになっている。

このモデルでの授業は、45分を1コマとして1日4コマを上限としている。また、学習者の集中力に配慮して、練習形態を変えることや、休憩を組み込むことが求められている。そして、4コマのうち1コマは、学習管理システム (Lernmanagementsystem, LMS) を利用して課題中心の時間とし、その間に教員と受講者が個別あるいはタンデム形式で直接話す機会を設けることも求められている。

ヴァーチャル教室での授業を実施するための最低基準は、ビデオ会議システムとLMSが使えることであるが、さらに以下のような点も満たす必要がある。

- ・ビデオ会議システムでは、教員と受講者の双方でマイクとカメラが使えること
- ・ホワイトボードや黒板の機能があること
- ・ビデオや静止画を見せることができる
- ・受講者の氏名が画面上に表示されること

また、授業に必要な機材 (ノートパソコンやパソコン、タブレット端末、ヘッドセットやカメラなど) をコースの実施者が準備することも求められている。そして、ガイダンスおよび受講者側で技術的な問題が生じた場合に複数の言語 (ドイツ語と受講者が理解できる言語) でサポートを行う、教員がヴァーチャル教室での授業を行う十分な技術を有していることなども最低基準に含まれている。

2.2.3 モデル3：対面授業とその別室へのライブ配信

このモデルではクラスを2つの固定したグループに分け、2つの教室に入れて授業を行う。この場合にも教室内では1.5メートルのソーシャルディスタンスを取ることが必須である。そして、一方の教室で教員が対面授業を行い、もう一つの教室ではそのライブ配信を見ながら授業に参加する。

2つの教室はビデオカメラとマイクでつなぎ、教員と受講者は互いを見ることも聞くこともできるようにする。そして、45分または90分ごとに教員が教室を移動して対面授業を行う（図1）。

	1時限	2時限	3時限	4時限
教室 A	対面授業	ライブ配信	対面授業	ライブ配信
教室 B	ライブ配信	対面授業	ライブ配信	対面授業

《図1：モデル3での授業例》

このモデルでは次のような最低基準が設けられている。

- ・両方の教室で対面授業とそのライブ配信の視聴ができること
- ・両方の教室で、受講者が同じような雰囲気で作業ができ、授業に参加できるようにすること
- ・どちらの教室の受講者も教員からの直接指導が受けられるように、教員は45分または90分ごとに教室を移動すること
- ・できるだけ隣り合った教室を使用し、受講生が遅刻してきた場合などに教員が素早く対応できるようにすること

2.2.4 モデル4：対面授業とヴァーチャル教室（固定ハイフレックス型授業）

モデル4ではクラスを2つの固定したグループに分け、一方のグループは教室で対面授業を受ける。そしてもう一方のグループはビデオ会議システムを使ってその授業に参加する。このモデルは「ハイフレックス型」とも呼ばれる形式であるが、通常のハイフレックスは対面か遠隔かを受講者が自分で選択するが、このモデルでは一日おきに対面授業を固定されたグループで受講する（図2）。遠隔授業を受ける場所は、自宅でも学校でよい。学校で受講する場合には、対面授業とは別の教室で受講する。

	月	火	水	木
グループ A	対面授業	遠隔受講	対面授業	遠隔受講
グループ B	遠隔受講	対面授業	遠隔受講	対面授業

《図2：モデル4での授業例》

このモデルの最低基準はモデル2（ヴァーチャル教室）と同じである。また、このモデルの授業も1日4コマを上限としている。

2.2.5 モデル5：2つの教室を使用した対面授業

このモデルでは受講者を2つのグループに分け、2つの教室に入れる。そして一方の授業で教員

は対面授業を行い、他方の教室にいる受講者には課題を与え自習させる。いずれの教室でも1.5メートルのソーシャルディスタンスを取ることが必要である。自習を行うグループにはチューターやアシスタントを配置することもできるが、対面授業ができるのは担当教員に限られている。そして、45分または90分ごとに教員が教室を移動して対面授業を行う（図3）。

	1時限	2時限	3時限	4時限
教室 A	対面授業	自習課題	対面授業	自習課題
教室 B	自習課題	対面授業	自習課題	対面授業

《図3：モデル3での授業例》

このモデルでは以下のような最低基準を順守する必要がある。

- ・対面授業の内容と自習課題の内容が互いにかみ合うようにすること
- ・自習課題はプランを立て、その記録を残すこと
- ・1日の授業のうち、50%が対面授業となるようにする
- ・受講者が自習の時間を持って余すことのないよう、受講者に応じて課題を調整して与えること
- ・機材などの準備に応じて45分（あるいは90分）ごとに、教師が移動する代わりに受講者を移動させてもよい
- ・使用する教室は隣り合っていることが望ましい

BAMF は5つのモデルを提示し、2020年7月1日から12月31日までにいずれかのモデルに沿って統合コースを開始した場合には、1コースあたり1500ユーロの「パンデミック追加金」を統合コース実施者に給付することも合わせて通達した⁶⁾。BAMF はまた、実際の現場でどのモデルが採用され、その背景にはどのような事情があるのかを調査している。次章ではそれについて考察する。

3. 授業の実情

BAMF の研究センター (Forschungszentrum Migration, Integration und Asyl) は、コロナ禍での統合コースにおける教育および学習のデジタル化について調査を行いワーキングペーパー (Kay/Eckhard/Tissot 2021) を出している。それによると、2021年3月の時点で、対面授業（モデル1）を行っている統合コースは77.5%であった。次いで多いのは対面授業と自習課題を併用しているモデル（モデル5）で、全体の14.3%であった。ビデオ会議システムを使用した遠隔授業（モデル2）を行っているのは6.4%で、対面授業とその別室へのライブ配信の組み合わせ（モデル3）や対面授業と遠隔授業の組み合わせ（モデル4）はそれぞれ1%程度でしかなかった（表1参照）。

この結果から、BAMF は5つのモデルを提示したが、結果としては統合コースのほとんどが対面授業で行われており、デジタル化という点ではほとんど進んでいないと言える。これには「コース提供者および教員側の問題」と「受講者側の問題」がある。BAMF では教員へのインタビューを行い、問題を分析している。次にこの分析結果を考察する。

《表 1：採用されたモデルの割合》

モデル1: 十分な広さの教室での対面授業	77.5%
モデル2: ヴァーチャル教室	6.4%
モデル3: 対面授業 + 別室へのライブ配信	1.0%
モデル4: 対面授業 + ヴァーチャル教室	0.8%
モデル5: 対面授業 + 課題	14.3%

3.1 コース提供者および教員側の問題

デジタル化が進まなかった理由として、ワーキングペーパーではコース提供者および教員側にある3つの要因を挙げている。

1つ目は「教室設備の問題」である。BAMF が提示したモデルのうち、モデル2（遠隔授業）以外はすべて対面授業を基本にしている。しかし、採用された割合が著しく低かったモデル3（対面+ライブ配信）とモデル4（対面+遠隔/ハイフレックス型）では、教員が教室で授業をするだけでなく、その様子のライブ配信やハイフレックス型の授業に対応するための機材が必要となる。そもそも市民大学や語学学校の教室は対面授業を前提しているので、これらの機材や教室の設備が十分でなく、モデル3やモデル4を採用することは困難である。

2つ目は「遠隔授業に対する疑念」である。「そもそも遠隔授業で外国語授業が成立するのか?」「遠隔授業でインターアクションが成立するのか?」といった根本的な疑念は、コロナ禍でオンライン授業を開始する前に筆者自身も感じた。遠隔授業の経験がない教員にとって、このような疑念はごく当然のことである。これに加え統合コースの教員は、遠隔授業で生じる「物理的な距離」も問題視している。これには「グループワークなどでの協働学習が難しいこと」や「ゲームや歌を歌うなど、これまで行っていた活動ができない」、「受講者が質問しにくいこと」などに加え、「受講者と直接コミュニケーションが取れず、心理的な距離を小さくすることができない」といった情意面での要因も含まれている。ただし言語レベルの高いコースを担当する教員からは、遠隔授業でのグループワークについて、「ワンクリックでグループを作ることができる」、「Zoomでのほうが受講者間で話がしやすい」といった利点も挙げられている。

3つ目の要因は「教員自身の技術的な問題」である。これにはオンライン授業に不可欠なパソコンの操作に対する不安も含まれている。ある教員は「私はユーザーです。コンピューターについては何も分かりません。もし何か問題が起こっても、私は何もできないのです」と語っている。

これら3つの要因があいまって、授業のデジタル化が敬遠され、結果として対面授業（モデル1）もしくは対面授業と自習課題の組み合わせ（モデル5）を採用する教員がほとんどであった。

3.2 学習者側の問題

統合コースの受講者は、年齢や母語、学歴、家庭環境もまちまちである。そのため、受講者側には様々な「受講環境の問題」と「受講者自身に由来する問題」がある。

受講環境の問題には、そもそもパソコンやヘッドセットなど受講に必要な機材を持っていない受講者がいることが挙げられる。コース実施者がパソコンを貸し出しているケースもあるが、すべてのコース実施者にそれが可能という訳ではない。また、自宅で受講する場合、ネット環境が整っていない、家族や子供と同居している場合に集中して受講できる部屋がない等の問題も生じる。

受講者自身に由来する問題としては、パソコンを操作する知識が十分でないことが大きい。BAMFは遠隔授業を伴うモデルについては、受講前にガイダンスを義務付けてはいるが、そこで生じるのは言語の問題である。まだカタコトのドイツ語しかできず、ドイツ語の読み書きもままならない受講者にドイツ語でガイダンスを行うことにどれだけの効果があるかは言わずもがなである。しかし、受講者の母語でのガイダンスを行うこともそう簡単ではない。

これは教員側が指摘していることであるが、「受講者がどの程度自律的に学習できるか」ということも大きな要因である。モデル5では受講者を2つのグループに分け、一方では対面授業を、他方では自習課題を行わせるが、このモデルを採用した教員たちは次のように語っている。

Also die Teilnehmenden sind gar nicht so autonom, dass sie eine Unterrichtseinheit allein mit Übungen verbringen können und das ist für verlorene Zeit, ganz ehrlich. Die Guten, klar, die schaffen das natürlich ... (Working Paper 91, S.29)

受講者は、授業1時間を一人で課題を行って過ごせるほど自律的ではありません、ただ時間が過ぎていくだけ。よくできる受講者はもちろんちゃんと課題を行うけれど...

3.3 対面授業での問題点

統合コースは、そのほとんどが対面で行われている。しかし、コロナ禍以前の授業がそのまま継続されている訳ではなく、教員は様々な問題を抱えつつ授業を行っている。対面授業で最も大きな問題は「マスクの着用」と「ソーシャルディスタンス」である。教員はマスクを着用することで、発音をする際に自分の口元を見ることができない。また、ソーシャルディスタンスを保つために、教員はむやみに受講者に近づくことができない。インタビューを受けた教員たちは、この不自由さを次のように表現している。

...wenn man das Abstandsgebot einhalten will, mit Maske und allem, und die Kontakteinschränkung einhalten möchte, geht das(=Gruppenarbeit) eigentlich nicht, ja: Also eigentlich hat man nur die Lehrkräfte, die vorne was erklärt. (Working Paper 91, S.29)

ソーシャルディスタンスを保とうとすると、しかもマスクを付けて、接触制限を守ろうとすると、実際には(グループワークは)できないですよ。つまり、前で何かを説明する教員がいるだけってことですね。

Gruppenarbeit in Corona-Zeiten ist nicht erlaubt, darf man nicht. Und das war dann Oktober bis Dezember (...) ein fast reiner Frontalunterricht und das ist kein angenehmes Lernen für die Schülerinnen . Für mich als Lehrkraft auch nicht. (Working Paper 91, S.29)

コロナ禍ではグループワークはできません、許されないんです。それが10月から12月まで続いて(…)ほとんどずっと一斉学習でした。生徒にとって決して楽しい授業ではないです。教員の私にとっても楽しくない。

対面と課題を組み合わせたモデル5では受講者の自立学習が求められるが、このモデルを採用した教員は次のような体験も語っている。

Die negativen Seiten sind: Es gibt wenig Zeit für Erklärung. Es gibt wenig Zeit mit der Lehrerin. Es gibt zu wenig Weiderholungszeit für Grammatik. Und was sie (die Teilnehmenden in der Evaluation des Kurses, Anm. d. A.) auch geschrieben haben: hundert Prozent Gebühren, fünfzig Prozent Lehrerin.“ (Working Paper 91, S.29)

良くないことは、説明する時間が少ないこと、教員との時間が少ないこと、文法をおさらいする時間が少ないことね。「受講料は100%、先生は50パーセント」とも（受講者が授業評価に）書いてあったし。

3.4 遠隔授業の問題点

統合コースで対面授業が重んじられる理由は、これまで見たような遠隔授業を阻む要因だけが理由ではない。遠隔授業（モデル2：ヴァーチャル教室）を採用した教員からは、グループワークにおいて受講者間のインターアクションの頻度や密度が上がったこと、受講者間でよりオープンに話ができること、グループを作ることが簡単であることなどのポジティブな意見も上がっている。しかし、多くの教員が問題視したのは、「ヴァーチャル教室には、本来の統合コースが担う社会的な機能がない」ということである。

通常の対面授業では、授業の前後や休み時間にクラスメートで話をするのが可能である。これは「クラスメート」という人間関係を作ることである。しかしヴァーチャル教室ではそのような関係を作ることが難しい。この点についてBAMFのインタビューの中で教員は次のような切ないエピソードを語っている。

Ich hatte aber auch eine Teilnehmerin, die meinte, sie hat keine sozialen Kontakte. Und das finde ich sehr problematisch. Das ist natürlich der Pandemie geschuldet, aber das fand ich dann auch traurig, dass sie sagt, ja, aber ich kenne niemanden. Und alles was ich mache ist online. Denn meine Falmlie ist nicht hier. Und ich finde, für die Leute ist ein Präsenzkurs sehr sehr wichtig. Um eben auch mal rauszukommen und vielleicht auch mit den Teilnehmern dort dann nochmal einen Kaffee trinken zu gehen. (Working Paper 91, S.36)

私のかつての受講者ですが、彼女が言っていました、彼女には社会的な接触がないと。それはとても問題だと思います。もちろんパンデミックのせいですが、それにしても知っている人がいない、自分がやっていることは全部オンラインだ、なぜなら私の家族はここにいないからと彼女が言っているのは、本当に悲しいことだと思います。彼女のような人たちにとって対面でのコースはものすごく重要だと思います。家の外に出て、参加者とコーヒーを飲みに行ったりするためにも。

別の教員は次のように語っている

Also abgesehen von der Sprachvermittlung, fehlt denen halt auch der soziale Kontakt. Also so diese Kurse sind ja immer so wie ein geschlossener Raum so ein bisschen, wo alle Leute irgendwie ein ähnliches Schicksal teilen. Und das ist ja immer dann mehr als nur; also zumindest in meinen Kursen, immer noch mehr als nur Sprachunterricht.

Und das fehlt denen, glaube ich, sehr: (Working Paper 91, S.36)

ドイツ語を教えるということは別として、受講者には社会的な接触が足りないのです。このようなコース（＝統合コース）というのは、閉ざされた空間みたいなもので、そこにいる人たちはみな似通った運命を共有しています。そしてそのことで、少なくとも私の授業ではそうですが、単なるドイツ語の授業ではなく、それ以上のものになっています。そのことが足りないと思います。すごく足りない。

この教員が言っているように、統合コースに通う移民・難民にとって、授業はドイツ語を学ぶ場以上のものであるのだが、遠隔授業には「ドイツ語を学ぶ時間」を超える機能は付与されないということである。

4. まとめ

ドイツではコロナ禍以前から、移民・難民を社会に組み込むべく手厚いドイツ語教育を行ってきた。その歩みを止めないために、BAMFは迅速な対応を取ってきた。そしてその対応がどのように受容されているかを検証し、公開していることは特筆すべきことである。

本稿で紹介した検証結果からは、デジタル化の利点ではなく、統合コースにおける対面授業の重要性がより鮮明となった。様々な事情を抱えてドイツにやって来た移民・難民が学ぶ統合コースでは、やはり対面授業によるきめ細やかな指導が要求されている。

コロナ禍において、日本の大学では否応なしに教育のデジタル化が一気に進んだが、これは対象が「大学生」であること、またその多くは国内に家族がいて人や社会との接触があり、言語のハンディキャップがなく、インターネットへ簡単にアクセスでき情報を取り出せるといった条件が整っているからだということを、今回の考察を通じて痛感した。

そうならないことを願うが、コロナ禍が今後も続き、オンライン授業を継続しなければならないのであれば、統合コースでの事例を他人事と捉えるのではなく、学生の Sozialer Kontakt「社会的な接触」についても考慮し授業や課題に工夫をすることが必要である。また、コロナ禍での授業における教員と学生の経験を記述し、それらを検証することも必要である。そして、それらの知見を、よりよい授業実践につなげる必要がある。

注

- 1) Bericht zur Integrationskursgeschäftsstatistik für das Jahr 2020を参照
- 2) Bundshaushalt (www.bundshaushalt.de/#/2020/soll/ausgaben/einzelplan.html) を参照
- 3) Trägerrundschreiben は BAMF のホームページからダウンロードが可能。ただし一部の書面は更新に伴い削除されている。
- 4) DTZ および LiD はいずれも統合コースを修了した後で受験する試験であり、受験のための費用は BAMF が負担する。DTZ では成績に応じて A2 または B1 レベルのドイツ語が証明される。LiD はオリエンテーションコースで学んだドイツの法制度や社会生活に関する知識を問う試験で、移民・難民が滞在許可の延長やドイツ国籍を取得する場合にはこの試験の合格が求められている。
- 5) この大綱は2020年4月28日に各州文部大臣会議が出したもので、初等・中等教育学校での授業再開のための条件を規定している。

6) 2021年1月1日以降も5つのモデルは継続して導入されているが、モデルのいずれかを採用して2021年7月1日から9月11日までに新たに開始したコースに対する給付金は、100時間のコースに対して1250ユーロとなった。

参考文献

泉真樹子 (2020). 「【ドイツ】新型コロナウイルス感染症対策関連法」. 『外国の立法』 No.283-2.

国立国会図書館 調査および立法考査局.

吉満たか子 (2020). 「ドイツの移民・難民対象のオリエンテーションコースのカリキュラムと教科書に関する一考察」. 『広島外国語教育研究』 23. 95-110. 広島大学外国語教育研究センター.

吉満たか子 (2019). 「ドイツの移民・難民を対象とする統合コースの基本理念と現実」. 『広島外国語教育研究』 22. 29-43. 広島大学外国語教育研究センター.

Bundesamt für Migration und Flüchtlinge (2020): Trägerrundschreiben Integrationskurse

Bundesamt für Migration und Flüchtlinge (2021). Das Bundesamt in Zahlen 2020

Bundesregierung (2019). Darstellung der Maßnahmen der Bundesregierung zur Sprachförderung und Integration.

Kay/Eckhard/Tissot (2021). Digitales Lehren und Lernen im Integrationskurs. Working Paper 91.

Bundesamt für Migration und Flüchtlinge.

Kultusministerkonferenz (2020). Rahmenkonzept für die Wiederaufnahme von Unterricht in Schulen.

ABSTRACT

Integration Courses for Migrants and Refugees in Germany under the Coronavirus Pandemic

Takako YOSHIMITSU

Institute for Foreign Language Research and Education
Hiroshima University

The German government is currently conducting integration courses to address the need of migrants and refugees to learn the German language, and to enable them to become familiar with various aspects of German social life and the legal system. As of 2020, about 2.43 million people had taken an integration course since the start of 2005. The annual number of participants peaked at about 340,000 in 2016, which was affected by the European migrant crisis, and decreased to 176,000 in 2019. The number of participants in 2020, which was affected by the coronavirus pandemic, was 106,000. The number of immigrants and refugees flowing into Germany during the pandemic has dropped sharply, but the German government has taken various measures to continue the process of integration.

This paper reports on the notifications issued by the Bundesamt für Migration und Flüchtlinge (Federal Office for Migration and Refugees, BAMF) to the providers of integration courses before and after the lockdown in Germany that began in mid-March 2020. Also, with reference to the “five models for class continuation” measure stipulated by the government, the paper considers how integration courses have been implemented under the pandemic. There are various types of integrated courses, but in this paper, the general integration course (Allgemeiner Integrationskurs), which is taken by about 80% of all course participants, is featured.